

連携先世界遺産：清水寺

清水寺の△△の〇〇(良い点)を磨け！もしくは□□(困っている点)を救え！

境内の魅力を再発見しそれを伸ばす、あるいは問題点を発見しその問題解決を図る、いずれにしても独自の視点で新しい課題を見つけ解決する

■受講生

鵜飼 望 (立命館大学・経営学部経営学科・3年生)、亀田 美裕 (同志社大学・文化情報学部・2年生)

木内 結 (同志社大学・法学部・2年生)、小原 克貴 (立命館大学・産業社会学部・2年生)

灰方 亮真 (立命館大学・経営学部・3年生)、平川幹 (立命館大学・経済学部・3年生)

松村晴菜(立命館大学・文学部・1年生)、WANG KUAN YING (立命館大学・国際関係学部・3年生)

■担当教員

宗本晋作、青柳憲昌、遠藤直久 (立命館大学 理工学部 教授、准教授、講師)

活動目的・概要

世界遺産・清水寺を対象に、お寺でもまだ気づいていない、時代を超え後世まで維持していくべき良い点は何か？逆にまだ気づいていない困りそうな点は何か？未来の清水寺のためを見つける課題は、良い点でも困っている点でも良い。清水寺での講話やフィールドワークから良い点または困っている点を発見し、良い点なら伸ばし、困っている点なら改善できるように考えてもらう。学生たちが独自に発見し設定した課題を既成概念にとらわれることなく、創造性豊かに解決する提案を創造することを目的としています。

学生を2グループに分け、清水寺で講話こ聞き実施調査を行い、グループごとに独自の視点で清水寺の良い点、もしくは困っている点を発見してもらいました。成果物はホームページ等で公開し活用いただくことが目標として、森先生にもご参加いただき、議論と推敲を重ね、各々の提案に辿り着きます。例年通り、共同作業を経て、他大学の学生や理系文系の専門分野の異なる学生同士が、積極的な交流を図ることも目的の一つとしています。結果、初年度から続く受講生のOBOG会=清水寺ファンの定着につながっています。



◆主な活動

2022.5.22 オリエンテーション

2022.6.5 概要説明(森清顕先生の講話)、グループ分け、現地調査の指示

課題・進行説明、自己PR、グループ分け

2022.6.19 清水寺の建築的視点と歴史

インタビューまとめ、課題の確認

2022.7.3 各チームによる現地調査計画の発表、フィールドワーク

2022.8.21 草案批評1 :各チームの発見した課題の発表とフィールドワーク

2022.9.14 草案批評2:各チームの発見した課題の発表とフィールドワーク

2022.9.15 草案批評3 :各チームの発見した課題の発表とフィールドワーク

2022.10.2 草案批評4 :各チームの発見した課題の発表とフィールドワーク

2022.10.23 中間発表

2022.11.13 草案批評5 :各チームの発見した課題の発表とフィールドワーク

2022.11.27 成果発表会準備

2022.12.11 成果発表会(他科目との合同授業)

活動の成果

清水寺の空間

清水寺の特徴として、お寺の境界が曖昧な点があります。そのため、清水寺周辺エリアでは、お土産屋さんや八坂の塔などの多様な観光スポットが、それぞれの場所で粒立ちながらも“清水寺の空気感”を纏い、高い密度で連なっています。訪れる人は、こうした連なりを体験することで、1日中、場所の魅力に浸ることができます。

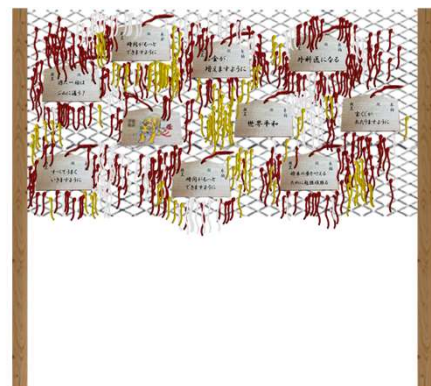
私たちは、この清水寺の途切れない空間体験に注目し、そこで生じる連続性のあるストーリーに価値を見出しました。私たちの提案するエリアマップ形式の体験手帳は、来訪者の清水寺体験を視覚化するツールです。清水寺本堂から見渡せる景色は、観音様がいつも見守られている景色とされています。そこで起こる体験の数々は、まさに観音様が見ている風景そのものであり、個人の体験が綴られた完成された手帳は“清水寺の空間”を纏めた参詣曼荼羅へと昇華されていきます。



絵馬に紐がかかると...!?

「絵馬」は古来より神仏へ願いや祈りを伝えるためのツールとして使われてきた。清水寺にも重要文化財に指定されている2点など、歴史的価値の高い絵馬が数多く収蔵されている。また絵馬は、今日に至るまで、願主と神仏の二者間でのやりとりであり、願いを書く人同士のつながりは感じられなかった。

私たちはこうした事実に基づき、現状の絵馬をアレンジし、参拝者間でつながりが感じられる要素を含ませようと考えた。具体的には、他人の願いが書かれた絵馬に「応援・共感・感動」を表すために、3色の紐をかけることを提案した。この提案により、清水寺で願う者は訪れる参拝者からの後押しが得られる。その結果としての無数に結ばれた紐と絵馬は、清水寺の世界観と重ね合わさり、絵馬掛けを華やかにし、清水寺のファンが多さを可視化することが期待される。





活動を振り返って

- 「清水寺の良い点を磨き、困っている点を救済」という授業テーマは一見すると簡単そうに見えたが、実際こやってみると画期的な案が見つからず多くの課題も直面した。あきらめそうになることや、グループの雰囲気が悪くなることもあったが、それでも考え続け議論を重ねていく過程では、思考力や表現力など様々な能力を得ることができたと思う。
- 活動を大別すると、清水寺特有の魅力を見出す作業、その魅力を磨く手段を描き出す作業の2つだったと考える。特有の魅力については、なぜそれが清水寺特有の魅力であると言い切れるのかをロジカルに説明する難しさを体感した。この作業では、私やメンバーの感性を総動員することが求められたと考える。一方、魅力を磨く手段についても、見出した魅力との整合性を取ること苦慮し、手段の目的化に陥りそうになる瞬間も何度も直面した。こうした局面では、提案に実体験を伴ったストーリー性を持たせることで、魅力と手段の一貫性や根拠の妥当性を説明できる状態に近づけたと考える。この作業では、指導講師の方々からの示唆をいただきながら、提案を精緻化していく思考プロセス、聞き手が納得できる伝達力を学ぶことができたと思う。
- この1年間の清水寺での授業をほとんど充実したもので、日本文化について色々学ぶことができた。この授業に登録したきっかけは、日本に留学した機会を使って、日本語の能力を向上し、清水寺についての知識をつけるためでした。この授業では専門用語が多く使われ、学生たちと先生の語彙が違ったり、思った以上に難しかったです。一般的な大学のレクチャー形式での授業ではなく、先生と学生たちとの対話とフィードバックを通じて、様々な視点やアイデアからお互いに理解し、話し合っ提案する授業です。観察力、想像力、物事を多角的に見る力を授業で養うことができ、将来そのような能力を活かすことができたら良いと考えます。授業は私を含め、留学生にとっては大変でしたが、清水寺のことや日本文化に対する知識を多くつけることができた貴重な講義だと思います。ありがとうございました。
- 清水寺先生方にレズンを通してアドバイスを下さりながらアイデアを試行錯誤していく過程が体験でき、論理の構成方法やグループのコミュニケーションなど学ぶことがたくさんありました。また、日本が世界に誇る清水寺で他では味わえない思い出が作れたので楽しかったです。
- 清水寺の授業らしくこの授業でも受け入れられない体験が多くあり非常に面白かったが、グループワークあるあるであるトラブルが起きることもあったり毎回先生方に絞られるのは非常に感謝的に感じることがあることもあったが12月の最終週で気持ちよくお別れと思っているので全体の感想をいうと面白くない授業だったと感じる。
- 約半年間かけて話し合いを重ね、自分たちでの提案をするというのは初めてでした。日が経つにつれ、最初はまとまらなかったそれぞれの考えが一つの形になっていき、最終的に提案できるまでになった過程は忘れることができません。時々は前向きな意見もありましたが、先生方の助言や数えきれないほどのチームでの話し合いによって、この提案を生み出すことができました。この授業を通して、多角的に物事を見てみるという視点を磨くことができ、それに加えて清水寺という日本を代表するお寺の歴史も深く知ることができました。とても貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。
- この講義をシラバスで初めて見た時、他学部や他学年、他大学の学生と交流をし、色々な考え方、見方を知り、自分の世界が広がりそうな気がして、面白そうと思ったのと同時に、なんか楽しげな授業だと思っ受講しました。しかし、いざ講義が始まり、自分たちの考えを先生方に提案するところまで言わなくてはいけなくて自分の考えの浅さや容赦ないダメ出しをしてきた先生を何度も恨みました。けれど、何度も厳しい意見を受け、班のメンバーと何回か精神で日々試行錯誤を加える内に、先生方からの評価も段々良くなるにつれ、論理的な思考能力や先入観から物事を判断しない、ニュートラルな考え方ができるようになっていくと、目上の人にボロクソに言われてもめげない辛抱強さ、そして、メンバーと意見が異なった時どのくらい相手に分かりやすく自分の考えを伝えるか、というコミュニケーション能力が付き、4月の頃の自分と比べて成長を感じられました。
- 世界遺産を観光地としてしか認識していましたが、文化遺産として強く意識したことはあまりなかったので新鮮だった。また、今回の清水寺のような一つのテーマからそれぞれのグループでものを考えることになったことが良かったので、それぞれのグループが注目した点や最終的な提案内容が全く違うことに驚いた。

担当教員からのコメント

宗本晋作

課題の解決法と問題設定の組合せを学生自身で発見しなければならぬため、最初の部分で手こずる学生は多い。しかしながら、苦戦しながらも見出した活路は、魅力ある新しい構想、それを人に伝えようとする高い創作意欲に繋がり、何より長い目で見たときに必ず有用となる学生自身の表現や纏める能力になると信じ、毎回、徹底した姿勢で指導している。

今回は特に学生たちが苦労していたように思うが、その分、学びは大きいはずである。授業時間後や時間外の長時間にわたる積極的な実地調査や議論により、期待以上の成果品ができた粘り強さ、高い向上心に賞賛とエールを送りたい。学生たちの新鮮なアイデアを共にブラッシュアップしていく過程で、私自身も考えさせられ、共に学んだと痛感している。このように今年で7回目となった今回もまた、私自身にとっても大変実り多い経験となった。この背景には、森清頭先生をはじめとする清水寺の大きなサポートがあったことを特筆させて頂いた上で、今一度、同寺関係者の皆様には深く感謝を申し上げます。

青柳憲昌

この課題は、清水寺について学生たちが感じた良さや現代的課題を発見し、それをもとに他の社寺にも適用できるモデルを提案してもらうというものです。今年の学生の皆さんは、現在当たり前になっているお寺の伝統や慣習を若々しいフレッシュな視点で問い直し、現代の一般の人々にもフィットするような魅力的な提案を行ってくれました。清水寺さんのご支援とご助言もあって素晴らしい成果となったと思います。

遠藤直久

本年は、コロナ感染症の脅威と混乱を過ごしてきた学生たちが集まり、清水寺に表れる復活の変化を感じながらの活動に邁進してくれました。皆さんは意欲的に活動できており有意義なものとなったと思います。困難な日常が未だ続く中、学生たちは素直でユニークな視点と考える努力の結果、素晴らしいアイデアを展開させた提案を見せてくれました。受け容れるだけの学びではなく、自ら手応えを感じながら掘り込んでゆく学びに価値のあった時間となったと思います。この課題を通して得た経験を、これからの社会活動や人生において必ず役に立ててくれると信じています。我々にこのような機会を与えてくださった森清頭氏をはじめ関係者の方々には心より感謝いたします。

活動資料

2022.6.5 清水寺:森清顕先生による講話、境内案内



森先生より、清水寺の1200年以上に渡る伝統と文化を重んじる中での、今年度のテーマであった清水寺の近況、また近年の観光までの変化についてお話しいただきました。その後、フィールドワークにて清水寺に現存する文化財、サインのあり方や、観光客のマナーなど幅広く解説いただきました。

2022.9.14 清水寺:草案批評とフィールドワーク



各班員が持つ知識やインターネットの情報、森先生の話をもとに境内を散策し、どのような問題点または長所があるか探しました。その内容の質を先生たちと高めていく過程=エスキスを体験し、作成することの大変さをこれから知ることになります。

2022.11.27 清水寺:最終発表に向けた準備



森先生に発表する最終成果物の最終エスキスの日でした。どの班も魅力的な案を持っており、あとは上手に伝えられるようにまとめる段階にありました。まずは来月森先生を納得させるように最後のエスキスを真剣に聞き、修正箇所を綿密に探しました。